文化財をたずねて

城下町林田めぐり

表紙説明

林田八景のひとつ琵琶山を鴨池より望んだもの。

コース案内

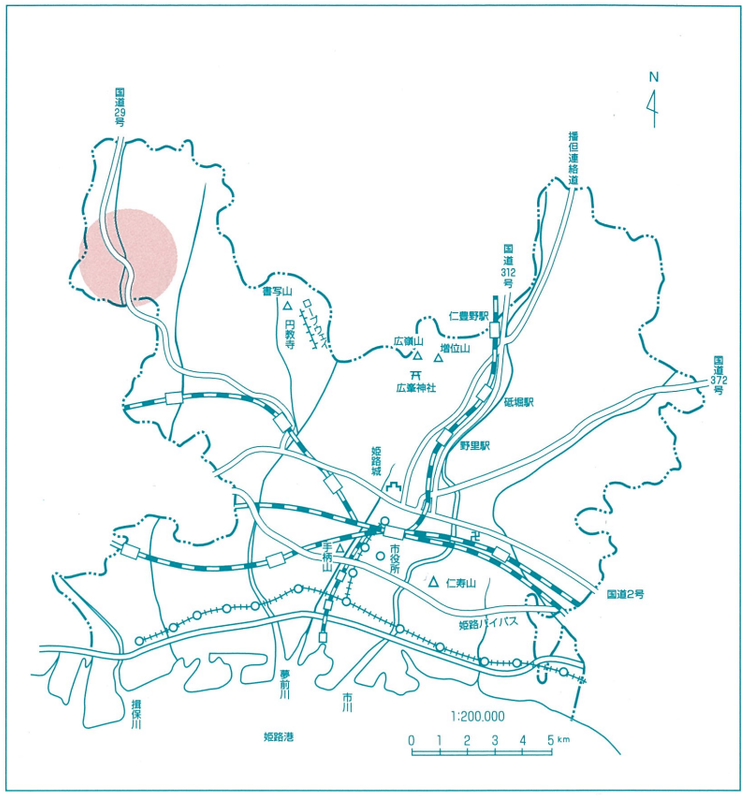
●林田バス停―(一五〇m)―薬師寺―(三五〇m)―塩阜神水―(二〇〇m)―建部神社・陣屋跡―(一〇〇m)―敬業館―(三〇〇m)―済水寺―(一〇〇m)―三木家長屋門―(約一km)―西池の碑―(約一・二km)―祝田神社―(約一km)―道林寺―(約一・五km)―八幡神社―(約一・三km)―林田橋バス停

(全行程、約七・二km)

※文化財の見学はマナーを守り、迷惑をかけないようにしましょう。

交通案内

JR姫路駅前より神姫バス・林田経由、山崎行、林田下車



昭和60年3月31日
平成14年3月三版
姫路市教育委員会
姫路市文化財保護協会
発行

林田藩陣屋跡

元和三年（一六一七）より林田藩主建部家一万石の居館のあった所で雪国と言いたいが、海から三里はなれているが、海から一里ほど離れている。石垣や豪壮なかまえは見られないが、石垣の一部に当時の面影を残し、現在、玉垣で囲んで保存する立派な神社代藩主建部政和を祀ってあります。

陣屋推定復元図（岡久雄氏作図）

旧集の句碑

はせを

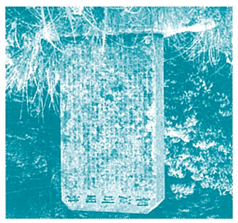
蓑と笠　竹うつる日は

右の句は薬師寺境内にある自然石に刻まれたものであります。裏面にも句が刻んでありまして、境内には他にも句碑が二基あり、俳句は盛んだったようすがしのばれます。同じく粒状で彫ってあります。

姫路城の謂望

元禄元年（一六八七）より部政賢が寛政六年（一七九四）に建てた林田藩の学校（藩校）です。文久年間（一八六一～六四）に火災にあいましたが、まもなく再建されました。聖願や練武場・文庫などがあり、この建物がのこっていますが、今は講堂だけが残っています。校舎は明治以後、小学校や村役場、公民館などに利用されてきましたが、昭和五十四年から翌年にかけ

西池の碑



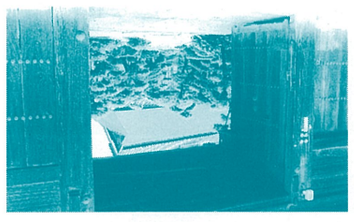
西池の碑

大きな溜池で、鴨池ともよばれています。

西池は上構の山麓にある自貞庵と呼んでいました。

済水寺の五輪塔

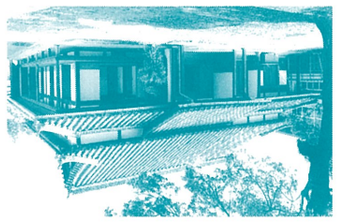
住屋の三木家十一代当主が盤珪を迎えて開いた寺で、元禄四年（一六九一）に済水寺になりました。境内には六代藩主建部長教の墓碑があり、俗に殿様の墓といっています。



三木家住宅

三木家住宅

林田藩内に一万石の住屋が三軒あったが、今も昔のまゝの一軒が、今のこの姿をとどめています。広大な屋敷地にかやぶきの主屋もあり、立派な長屋門や白壁の土塀がよく残っております。主屋、長屋門、土蔵などが林が県指定文化財。



敬業館

敬業館

池の東南の堤上に碑があり初代藩主政長の武功や、池の築造由来などが記してあります。文化十三年（一八一六）に立てたもので、全藩士がこの碑文を暗誦したといいます。池の南には水があります。藤井市右衛門の碑があります。寛政四年（一七九二）水きき役四人が村の水をかっていたいう時、藩命に背いて翌年死刑となったといいます。

祝田神社の石燈ろう

祝田神社は延喜式に記載されたお宮で、貴船社ともよばれたっていますが、ありません。

祝田神社の石燈ろう

河野鉄男の墓碑

本殿に向って左手山際に三人の藩主（三代政宇、七代政賢、八代政尊）が寄進した石燈ろうが立っています。

幕末の詩人として有名で敬業館教授の鉄男の墓碑が道林寺の奥の墓所にあります。「文崇先生之墓」と記されています。

河野鉄男の墓碑

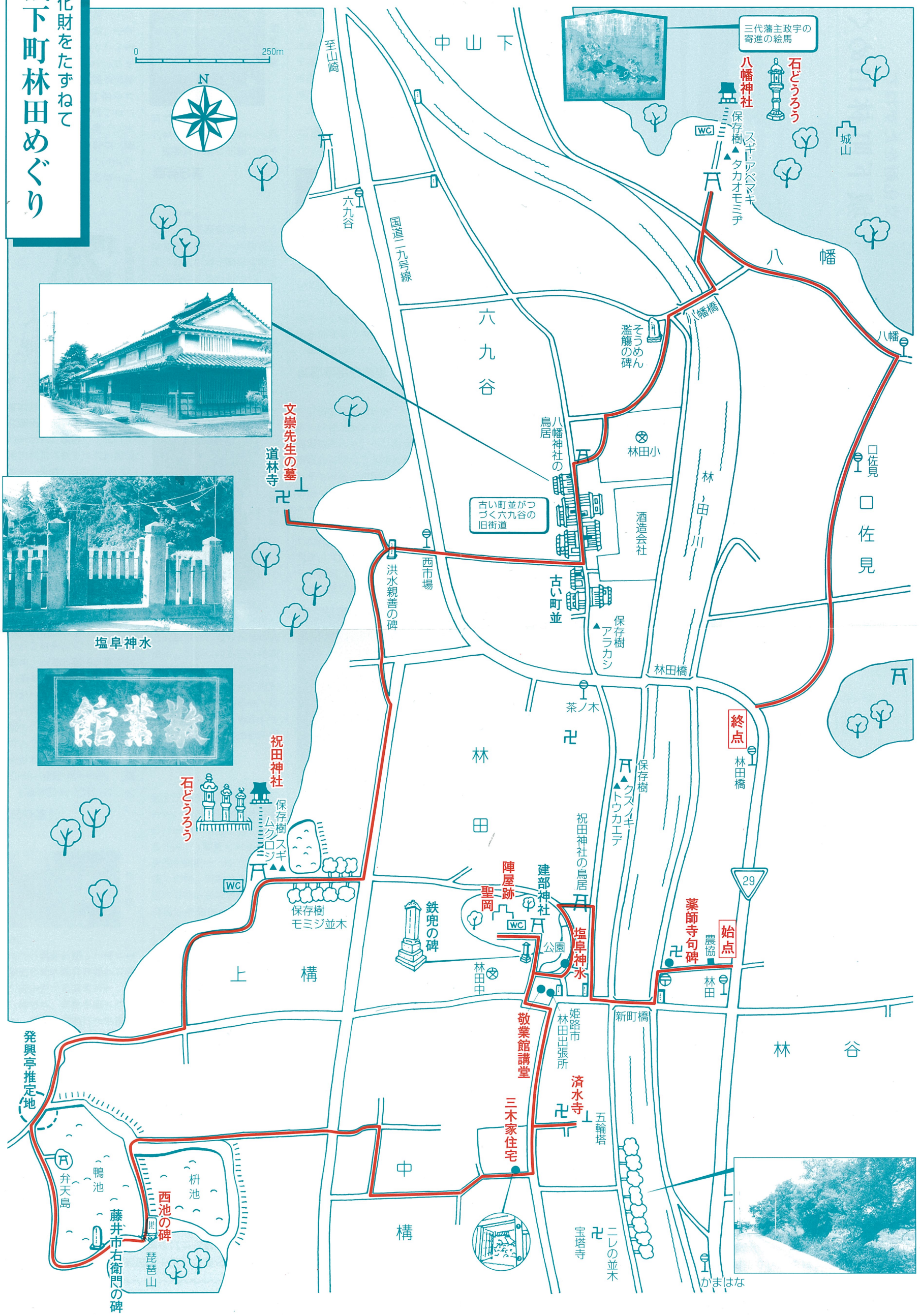
八幡神社の石燈ろう

本殿は一直線に長くのびる石畳、見事なものです。本殿に向って左手には、祝田神社と同じく藩主寄進の石燈ろうが立ち並んでいます。ここも絵馬が多くあり、本殿には三代藩主政宇奉納の「宇治川の先陣図」があります。

文崇先生の墓

塩阜神水

「播磨国風土記」に、水のような記があります。「塩水がわき、海から三里はなれているが、海から一里ほど満ちた時は深さ三尺（12cm）ほどになり、牛・馬・鹿などが塩草を好んで飲んだ。」現在、玉垣で囲んで保存する立っています。

名号塔

文化財をたずねて 城下町林田めぐり